



写真：2022年台湾校友会総会

日台稲門会 ニュースレター12月号 2022年12月14日刊

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター12月号をお届けします。

コロナで自粛ムード一辺倒だった台湾そして日本でもようやく活動復活の兆しが見えてきました。今回は2年ぶりに台北で開かれた台湾校友会総会の記事も載せました。

1. 挨拶 (三村達 会長) 2(頁)
2. 2022年早稲田大学台湾校友会総会報告(相京浩一さん) 2
3. 台湾からの便り14 台北稲門会より(斎藤征二さん) 3
4. 台湾統一地方選、民進党「惨敗」のワケ、では総統選は!? (梶山憲一幹事長) 5
5. 経済ニュース (劉彦甫 記者) 6
6. 日台稲門会秋季講演会 (江正殷先生) 8
7. 最近の台湾関連ニュース 15
8. 台湾と日本を繋ぐ五七五 千葉・東葛川柳会が創立35周年(江畑哲男さん) 17
9. 新入会員・会友、新幹事紹介 18
10. 一般社団法人日台政策研究所講演会(案内) 18
11. 『台湾検定9級(台湾に一度行ったことのある人向け) 19
- 編集後記、台湾検定正解 20

1. 挨拶（三村達 会長）

暦の上では冬になり、朝夕だいぶ肌寒くなってきましたが皆様はいかがお過ごしでしょうか？

日台稲門会も今年1年コロナ禍でなかなか思うような活動ができませんでした。来年はwithコロナで何とか活動の幅を広げていき、皆様に充実した情報をご提供していけるよう頑張っていきたいと考えております。

来年も日台稲門会に対し、何卒よろしく願いいたします。



2. 2022 年早稲田大学台湾校友会総会報告（相京浩一さん）

2022年11月19日（土）に台北市の台北市信義區松壽路9號8樓（新光三越信義新天地A9館8樓）において、3年ぶりとなる2022年台湾校友会総会が開催され、早稲田大学からは田中総長、また校友会からは萬代表幹事、台北稲門会からもたくさん出席されました。日台稲門会からは江先生を始め、萩原常任顧問ご夫妻、小川幹事など計6名、そして遠州稲門会（浜松）も参加されました。

総会翌日（20日（日））には恒例の観光旅行で桃園神社、大溪老茶廠、大溪老街散策をガイドつきツアーで楽しみました。中でもよかったのは桃園神社訪問でした。

戦前300社の日本式神社を台湾に建てる予定でしたが、200社で終戦を迎えました。戦後ほとんど取り壊されてしまいましたが、桃園神社（昭和13年設立）だけは地元住民の反対で最終的に現在の桃園県忠烈祠として残りました。昨今、雨漏れが発生したため、鄭文哲さん（三代早稲田理工）を中心に台湾校友会会員が資金を出して日本から宮大工を呼び寄せて修理を行ったとのことでした。境内には菊の御紋をつけた神馬の像もありました。



上左：総会後の宴会風景①



上中：総会後宴会②



上右：翌日観光後の宴会



上3：翌日観光(左；桃園神社，中；台湾野球博物館，
右；昼食)

左写真のみ 4 travel.jp から引用

早稲田大学台湾校友会総会報告記事は、台北稲門会ホームページにも載っています。
台北稲門会ホームページの記事 <http://www.waseda.org.tw/jp/>



3. 台湾からの便り14 台北稲門会より(斎藤征二さん)

今月の台湾の斎藤さんからの便りです。

11月26に台湾の統一地方選挙があり、民進党が大敗北したことは日本の新聞でも報道されておりますが、台北市長に当選した蒋介石のひ孫蔣万安についての11月28日付けnna Taiwanの記事を紹介します。



台北市長に国民党の蔣万安氏、史上最年少 (出所；2022年11月28日NEW)

26日に行われた台北市長選は最大野党、国民党から出馬した元立法委員(国会議員)の蔣万安氏(43)が57万5,590票を獲得し、与党の民主進歩党(民進党)候補で前衛生福利部長(衛生相)の陳時中氏(69)の43万4,558票、現職の柯文哲台北市長がトップを務める台湾民衆党の支援を受けた前台北副市長の黄珊珊氏(53)の34万2,141票を上回り激戦を制した。蔣氏は台北市長選が始まって以来、最年少の台北市

長となる。

中正区新生南路に位置する蒋氏の選挙本部前では、大通りを一部封鎖して開票を見守る集会が行われた。開票序盤から優勢を保っていたことから集会は終始楽観的な雰囲気で行われ、先に勝利宣言をした。他県市の国民党候補の状況が伝えられるたびに大きな歓声が上がった。開票が進むと



会場は満員となり、道路を挟んだ向かい側で足を止める人も。主催者発表によると、集まった支持者らは約5,000人に上った。

蒋氏は午後8時ごろ会場に到着。「市長好！（市長こんにちは）」という支持者の声援に握手で応えながら舞台上がり、「市民との約束を心に刻み、掲げた政策を実践し、台北をリードしていく」と表明。また陳氏と黄氏に対し、「最高の敬意を表す。選挙の過程で多くのことを教えてくれたことや民主主義の手本を示してくれたことに感謝したい」と述べた。

蒋氏は育児支援や若年層のための住宅支援などを政策に掲げる。夫と小学生の子どもと応援に訪れたサービス業の女性、林さん（45）は、「立法委員の時は学校の活動に毎回来てくれ、教育に関心を持ってくれている」とコメント。自由業の男性、胡さん（40）には2人の子どものお供、「若い人と考え方が近いことが勝因になったのではないか。子どもの教育や交通インフラの整備など、市民の生活をより良くする政策に期待している」と話した。

<プロフィール>

蒋万安

1978年台北市生まれ。蒋介石のひ孫として知られる。政治大学法学部出身。米ペンシルベニア大学法学修士・法律博士で、同カリフォルニア州の弁護士資格を持つ。シリコンバレー最大の法律事務所ウィルソン・ソンシーニ・グッドリッチアンドロサーティ（WSGR）で勤務した。2016年から立法委員を務めたが、台北市長選への出馬に伴い、11月10日に辞職を表明した。

4. 台湾統一地方選、民進党「惨敗」のワケ、では総統選は!?

(梶山憲一幹事長)

去る 11 月 26 日に行われた台湾の統一地方選挙は、与党・民進党の「惨敗」とされ、蔡英文総統は責任をとって党首を辞任した。

その結果は、直轄の 6 市および県市の合わせて 22 地域の首長選挙では、(候補者が病逝した嘉義市長選挙は 12 月 18 日に行われるが)

民進党 5 (6) / 国民党 13 (15) / その他 3 (1)

という結果だった。※ () 内は前回選挙

この 22 地域の議員の選挙では、計 910 議席のうち

民進党 277 (238) / 国民党 367 (394) / その他 266 (278)

と、民進党はやや議席を増やしたものの、国民党の優位は変わらなかった。

二期目の蔡英文政権下では、T S M C など限られた大企業の業績の好調によって台湾経済は成長したが、巷ではコロナの影響で飲食店など小規模な経営体の業績が不調だったり廃業に追い込まれたりといった状況で、庶民は民進党に満足はしていなかった。

加えて選挙戦では、民進党は候補者選びや宣伝などでぎくしゃくした面を露呈して、人びとの気持ちは民進党からさらに距離を置くものになり、こうしたことが結果となって現れたのだった。

この統一地方選挙が、2024 年 1 月に行われる総統と立法委員を選ぶ国政選挙の前哨戦との見方もあるが、「台湾有事」が取り沙汰されるなか対中国政策が焦点となり、台湾の選挙民は、また別の観点から選ぶものと思われる。

現在、民進党の候補と目されているのは、副総統の頼清徳氏。国民党は今回新北市長に当選した侯友宜氏が有力だと思われる。

しかし、頼氏は独立志向が強すぎると懸念をもつ向きもあり、侯氏は人気は高いが地方政治の経験しかなく国政の手腕は未知数である。両氏がこれらの懸念をどう払拭し、選挙民に自らをアピールしていくかが注目される。

精密な選挙予測をする台湾のサイトを見ると、12 月初旬現在、両者の予測得票率は拮抗

している。

5. 経済ニュース(劉彦甫 記者)

今月の劉彦甫さん（WTSA 出身で東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

<劉記者の選挙報告（12/10）>

今回の選挙では事前予想どおり、民進党は嫌われていた。蔡総統というよりも総統の周辺が人々から嫌われた。また選挙対策を十分してこなかったため、自滅したと言ってもよい。とにかく一言で言えば、態度が傲慢だった。蔡政権、民進党のコロナ対応はすべてよかったが、そのため、多少自信過剰になった。コロナ対策を指揮した陳時中・衛生福利部長も人々には傲慢に映った。また陳氏はワクチンの種類変更を説明しなかった。また「民進党を支持しないのは台湾を愛していない」と主張したこともマイナスに働いた。地方選では誰も中国を意識していなかった。また今回中国の工作もなかった。ただし、若者の国民党嫌いはあった。台北、高雄での投票率は低かった。地方は、無所属と第三勢力が強かった。2024年の総統選挙では、頼清徳副総統が立候補するものと思われる。総統選挙では、民進党が有利のように思える。ただし、頼清徳氏は今回主役になっていなかった。表に出てこなかった。民進党は、結果に対して負い目を感じていないが、民進党内部で派閥政治が起きていることが人々から嫌われた。総統選では、民進党は頼氏が立つと予想されるが、国民党は未定。今後民進党はその肥大化をどうするかが問題となる。

今回台北市長になった蔣万安氏（蒋介石のひ孫）は、生い立ちが不遇だったこともあり（以前の姓は章で、蔣姓すら名乗れなかった）。また苦学してアメリカの大学を出て、弁護士になったことも同情を誘った）、彼は蔣ブランド（蔣一族）を強調しなかったが、民進党はこのブランドを責めた。それが逆に国民党や国民の反感を買った。

今回の選挙は全体に盛り上がらなかった。若者は民進党を支持せず、勝ちっこないと決めていた。また大都市から地方に戻って投票しようという気力のある若者も少なかった。今回の選挙を通じて、日本人が「台湾人はこう思っているはず」という予想（思い）が外れた。予想と現実にギャップが生じているのがわかった。台湾も確実に変わろうとしている。今回の地方選挙でそう感じられた。

<記事>

① 国民に嫌われた台湾与党「民進党」は復活できるか

傲慢さと驕りを反省し謙虚さを取り戻す必要（東洋経済 12/4）

11月末に行われた統一地方選挙で与党・民主進歩党（民進党）は惨敗した。その結果は多くの台湾研究者やメディアの予想どおり

（「台湾人はなぜ地方選で親中政党を支持するのか」

を参照（*））だったが、親中政党・中国国民党に

大敗したことを受けて、民進党を率いる蔡英文総統は党のトップである主席を辞任した。

<https://toyokeizai.net/articles/-/637235>

（*） <https://toyokeizai.net/articles/-/628678>



② 今や中国の宝物、「パンダ」が背負う外交の歴史

『中国パンダ外交史』著者・家永真幸氏に聞く（東洋経済 11/27）

日中国交正常化に伴い、カンカンとランランの2頭のパンダが来日して今年で50年。かわいいパンダは今や中国の宝物、シンボルとして外交の舞台で「活躍」している。なぜパンダは中国を代表する政治的な動物になったのか。パンダを手がかりに中国外交の歴史と本質に迫る。 <https://toyokeizai.net/articles/-/635096>



③ 村田製作所の中国増産投資はなぜ非難されるのか

経済安保をめぐり性急な企業批判が台頭する危うさ（東洋経済 11/12）

電子部品大手の村田製作所が発表した中国工場の生産能力増強投資が、奇妙な非難にさらされている。同社は11月7日に中国・無錫にある工場で新生産棟を建設すると発表。投資額は約445億円で、同社の一度の設備投資としては過去最大規模だ。

この発表や関連報道を受けて、ツイッターを中心にネット上では村田製作所への非難が飛び交った。

<https://toyokeizai.net/articles/-/632136>



劉記者の過去の記事一覧 下記サイトを参照

<https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB>



6. 日台稲門会秋季講演会

◆日時：11月26日(土)講演

◆場所：早稲田キャンパス本部22号館715教室

◆演題：『早稲田で台湾を学び、教える』

～担当科目「台湾を知るを例に」～

こう せい いん

(講師 江 正 殷 (早稲田大学国際部東アジア部門長))



◆講師略歴：

1990 年来日、早稲田大学大学院法学研究科修士課程に進学。

博士課程在学中の 1998 年に同大学アジア太平洋研究センター

助手を務め、その後、国際教養学院にて講師、留学センター准教授を経て、2012 年 4 月より国際部東アジア部門長として大学の国際交流業務に携わっている。また、同大学台湾研究所の事務局長も務める。著書に、『日本外交研究與中日關係—海内外華人學者的視角』（共著、台湾五南出版社）、『中国語を学ぶ 10 の扉』（監修、早稲田大学出版部）、『中国語で読む 我的ニッポン再発見！』（共著、研究社）など。

<講演内容>

30 年近く早稲田で学び、早稲田で教えてきたが、今日は一台湾人として話します。

私は、「台湾を知る」という授業を行っているが、今日はその 1 年間で学ぶ内容を説明します。授業では、1 年間で 200 冊程度の本を読んでもらい、台湾という存在を、社会科学的アプローチを通じて自分なりの結論を出す訓練をする。そしてその足跡を授業で見せることを目的する。結論が正しいかどうかは問題ではなく、考えて結論を出す訓練をするが大切であることを学ぶ。

10 年ほど前に「早稲田ウイークリー」という雑誌で 100 年前の早稲田と台湾留学生のことについて触れた。台湾で議会設置運動というものがあつた、当時、留学生と早稲田の教授が高田牧舎でよく議論していたという記録が残っています。また野球もラグビーも早稲田大学経由で台湾

に入ったという記録もあります。2017年に早稲田野球部が訪台し、100周年記念試合をやりました。台湾校友会の謝南強さんのお父さんの謝國城さんは台湾の野球の父と言われ、その縁のためか、謝さん一族は四代早稲田出身です。四代目は今、政経学部の2年生です。謝さん以外に学生会館2階に記念アトリウムを寄付してくれた辜振甫先生。3号館1階に記念国際交流学生ラウンジを寄付してくれたハワード・ハギヤ（萩谷博）さんなど早稲田に関係ある人がたくさんいます。また台湾校友会は、早稲田100周年記念として大隈講堂横の大隈会館入り口に獅子像を寄贈してくれた。現在、台湾出身の名誉博士は3名います（高玉樹さん、辜振甫さん、李遠哲さん）。ただ、韓国の二十数名よりも少ない。もっと増やしてほしいと思っています。ところで、早稲田大学は、台湾研究所を2003年（台湾民進党政権時）に設立。今は30名の研究者がいる。最近の台湾研究所では、梅森所長以下、若林最高顧問を始めとする先生方が各種賞を受賞されている。私も早大テーチングアワードをもらった。台湾の研究を深くやっているのは、早稲田大学のみという自負がある。

授業（「台湾を知る（入門）」）では、台湾の歴史・社会、政治・文化を多面的なアプローチを通じて理解すると共に台湾という特殊な地域を考える際に、より普遍的な知見に基づいて自分なりの視野を拓けられるようになるように指導している。

社会科学の基礎知識を学び、自らの見方・考え方が身につくように台湾を題材にして多面的な学びと思考の訓練をしている。その上で、台湾への理解だけにとどまらず、より広い視野を備えて国際社会を理解することや学び方を身につけるようにしている。



対象は主に1～2年生の日本人です。今日は普段授業でやっていることを説明します。

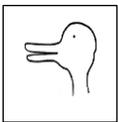
① 社会科学の基礎知識を身につける

本「ファクトフルネス 世界を正しく見る方法」（ハンス・ロスリング著）を教材にバランスをとれた見方が出来るように学ぶ。たとえば、世界の貧困層はこの20年間でどのように変化したか。①2倍？、②変化なし？、③半分になった？。正解は③（正解率は7%）。理由は中国で大幅に減ったから。中国の経済発展にともない、中国の貧困層が大幅に減ったのが原因。ただし、その中国で飢饉はなくなっていない。なぜか、その原因を調べるのが社会科学では重要ととらえる。

② そのため、本「貧困と飢饉」（アマルテイア・セン著）を紹介する。そこで「独裁国家は、貧困は減らせるが飢饉は減らせない」ということを学ぶ。貧困というのは、国の力でお金を配ればいくらでも減らせるものであるが、民主主義国家は貧乏人にたとえば1千万円を配ろうとすると、（不平等だと）みんなが反対するため、思ったほど貧困を減らせない。一

方、「民主国家は、飢饉は減らせるが貧困は減らせない」ということも知る。民主国家は、飢饉になると（言論の自由があるため）悲惨な状況を隠すことが出来ず、悪い情報もみんなに共有される。結果として飢饉に対応して死亡者を減らせることが出来る。一方、独裁国家は、国にとって不都合な情報は外に漏らさないようにするため、飢饉が起こっているにもかかわらず誰も知らない。気がついたらみんな死んでいると。このような社会科学的アプローチを通じて、中国を単にすごいと思うだけでなく、中国の欠点も知ることが大切と学ぶ。大学では感情論でなくアカデミック的に理解することが大切である。

- ③ 授業では、**無知の知**（自分あまりにも一方的な見方しかしていないという無知）を知ることによって自分の限界を広げることが学ぶ。たとえば、魚の限界という言葉がある。魚は自分が水の中にいることを知らない。しかし、人間は、知らないということを知って初めて、自分がなんであるかを知ることになる。そういったことを知ることを授業の第一歩とする。



左の絵は、ある人はアヒルが左を見ていると考える。

しかし、ある人はウサギが上を見ていると考える。

これは、「異なって見えるものは実は同じ」（ヘーゲル）とも言えるし、「同じに見えるものが実は異なっている」（ウイトゲンシュタイン）とも言える。中国と台湾を見る場合にもこれが当てはまる。

このように**社会科学を学ぶことで考え方の行き先を増やすこと**（奥行きを増やす。一つの事象に対して多面的にもものを見て考えることが学ぶということ）ができる。これが分かるとバランスのとれる人間になれる。それを授業で学ぶ。

- ④ 授業では、**事実と感情**の関係も学ぶ。日本では、毎年正月、餅をのどに詰まらせて 4,600 名が亡くなる。しかし、餅恐怖症の人はいない。それは、「餅が好き」（感情）ということが、高齢者にとって「餅は死亡につながる」（事実）ということよりも優先されるためである。人間は、感情 > 事実の時がある。台湾を学ぶことも同じ。台湾は非常に特殊なところだから感情に走ってしまうと間違った判断をすることがあると学生には教えている。

- ⑤ **なぜ台湾史を学ぶのか？** 答えはない。ただし、「歴史を学ぶとは、響きに耳を澄ますこと」でもあると学生には教えている。歴史を学ぶことは、確定的な事実を知り暗記することではない。学ぶ人によって姿、形を変える歴史像に「問い」を投げかけることである。そしてその問いに歴史的事実がどう響きを返すのか、その返しに耳を澄ませることである。例として石川啄

木の詩を取り上げる。「働けど働けど猶わがくらし楽にならざり ぢつと手を見る」。日露戦争後の不況という歴史的知識を参照しながら啄木の歌を読み、手を握りその歴史的事実を確認し、啄木の生きた時代を自分なりに知る。これは発展途上国と接する時も同じ。相手から握り返されたときに考え方が変わる。歴史に対するむかい方が変わる。相手の手を握り、相手からの握り返しを感じる（響き）が、歴史をとらえることにつながる。大学1年生は、基本（＝歴史）からやらないと物事の見方、考え方がズレてしまう。まず歴史を学ぶ入り口に立つ。これが第一歩。あとは自分で独自に勉強すればいいのである。

「私」（歴史の知識）から「私たち」（歴史的思考力）になり、<いま>と過去とを往復してや
っと台湾の歴史を学ぶ入り口に立つことができる。私（本省人、外省人、原住民）と私たち（台湾人）の線引きをして、その関係性／複雑性を把握すれば、台湾の歴史（私たちの歴史）の入り口に立つことができる。

以前は歴史は権力者の歴史だったため、私たちは常に受け身だった。しかし、今はインターネット時代となり、自分自身も発信者になれる。そのため、受信者と発信者という立場になれるため、気をつけなければならない。

⑤ **「歴史とは何か」**（E.H.カー著）という本があるが、この本を理解するためには、関連する本を何十冊も読んでから再度この本を読み直すと理解できる。そしてやっと歴史とは何か分かるようになる。この本では、歴史とは現在と過去との間の尽きることのない対話、過去は現在の光に照らされて初めて知覚するようになり、現在は過去の光に照らされて初めて理解するようになると言っている。私たちは、ものを見て自由に考えていると思っ
ているが、実は、自分の属する社会が排除したもの（歴史的事実）を知ることはできず、受け入れたものだけを知っているだけである。それゆえ、たくさんの本を読み事実を知って感情論をできるだけ排除した上で事実を確認することが大切である。

⑥ **事実と真実、サイエンスとはなにか。**真実から事実を探し出すことである。「事実」は1個しかないが、「真実」は受け取った方の見方（理解）とすると百人百通りある。宗教は、真実は一個しかないと言うが、それは間違いである。真実は一つと決めて検証はしないから、宗教は科学（サイエンス）ではない。検証する余地を残しておかなければいけない。神を信じれば救われるは事実ではない。多くの真実だと思われることを検証して客観的事実を探し出すのが科学なのである。将来の可能性を探るのが科学である。

⑨「地域」研究としての台湾

台湾の研究は複雑骨折を治療するようなものかも。決して単純ではない。地域研究は学問では

ない、遊びだとも言われた。そういう中で、台湾研究の師である若林先生が、早稲田であえて台湾研究をやろうとした目的はなにか。台湾の地域研究は、台湾の個性を見つけ、描いていくことである。台湾とはなにかということを見つけ出すことである。

State nation と Nation state

台湾には、国際社会に認証された名前と十全な主権的地位に欠けたステイト・ネーションという政治体が存在している。ステイト・ネーションではない。若林先生は、50年間研究してこれにたどり着いた。台湾は、なぜステイト・ネーションではなく、ネーション・ステイトなのか。台湾は、外から来た外来政権が「国家」という器を持ってきて、そこで国民を育てようとした。しかし、普通の国家は、国民がいてしかる後に国が成立する State nation なのであるが、台湾の場合は、まず国家という箱があって、そこに国民を入れた。まず国家ありきであった。台湾という個性を把握するためには、「今（台湾の政治変動）」を注視するだけでなく、その「来歴（歴史的に積み重なる時間）」も見つめなければならない。台湾史は各時代の異なった国家とそこに住む、移民との相互作用の積み重ねからできてきたからである。日本時代の教育が台湾では純粋培養のように保たれている。これは日本が良かったわけではなく、「日本時代の方がよかった」と思わざるを得ない時代が戦後続いたという、捻じ曲げられた親日感情だった。

（筆者：台湾史を見ると、台湾は普通の帝国主義ではなく、便宜的に台湾という地域を仮の宿として押さえる方法的「帝国主義」だったことが分かる。

台湾は国の体裁（領土、国民、主権、（外交、防衛、通貨））は整っているのであるが、世界から国として認められていない。そこにいる人々も独自の国家意識は持っていたのだが、以前は自分たちが作った国家という意識を持てずにいた。国家として成立している中華民国でなく、国家の要素をすべて整えているにも関わらず、中国の一地域として世界から認められていない国、それが「在台国家（統治機構）」としての台湾なのである。

日本統治下良かったどうかは別として、戦後「日本統治下の方がよかった」と思わざるを得ない過酷な状況（2.28事件、白色テロなど）に置かれてきたことも、親日感情を醸成する要因となった。犬（日本人）が去ったら豚（中国人）が来た。どっちも嫌だが、あえて言えば犬は吠いて治安を維持してくれた。豚はただ食うだけ（台湾人の財産を搾取するだけ）。それならまだ犬の方がいいと思った。

京大の駒込先生は台湾について、あたかも複雑骨折したかのような歴史の中で、自分（駒込）はその外部にいるのではなく内部にいることをようやく感じ始めたと言っている。

「歴史的真相は二重構造になっている。第一の段階では事実が問題となり、第二の段階では解釈が問題となる。議論する目的でそれらを分離することは可能だが、現実の歴史実践の中では、

二つは相互に結びついている」(リン・ハント「なぜ歴史を学ぶのか」)

「過去は決して後方にあるのではなく、我々の前を歩んでいるのである」(ハイデッガー)

⑩最後の日本兵は誰か？

- ・小野田寛郎少佐 「最後の」日本人兵士と定義 . . . 1974年3月12日日本に帰国 (フィリピンから)
- ・中村輝夫 (民族名スニヨン (史尼育唔)、漢名李光輝) . . . 1975年1月8日台湾に帰国 (インドネシアから) 中村は小野田寛郎よりも長く日本兵だった。

日本では、小野田寛郎さんが最後に日本兵だと言われたが、実は小野田さんより長く戦地に潜伏していた旧日本兵の中村輝夫さんという人がいる。本来なら日本でも大歓迎されなければならなかったのだが、中華人民共和国と国交樹立して間もなかったため、日本はこれ(元日本兵問題)をできるだけ大々的に扱わないようにわずかなお金を渡して、解決(?)とした。(帰国2年後に逝去)

⑪「日韓」と「日台」関係の変化

70年代台湾は、無視されていた。90年代日本は韓国を支援。2004年によく台湾に目を向けた。たとえば、台湾人への日本入国ビザ廃止(2005)、東日本大震災での台湾の募金活動に対する親台ムードの高まり(2011)、日本、台湾担当室設立(2013) . . . 2021年4月17日岸防衛大臣与那国島を訪問、島から台湾を望む。同日、在台交流協会でも初めて事務所(事実上の在台北大使館)に日本国旗を掲揚(4月17日は下関条約締結日)。

⑫台湾：デジタル民主主義 VS 中国：デジタル権威主義

台湾のデジタルコロナ対策が注目を浴びたが、政治でもデジタルという言葉が使われた。

中国的民主主義 = 生存権 + 幸福権 ⇒ 「民主と専政は矛盾しない。少数をたたくのは大多数を守るためであり、専政を実践することは民主主義を実現するためだ」(習近平)

台湾デジタル民主主義 . . . ひまわり運動(政権党が独自に重要事項を決定することに反対、台湾人意識の高揚)が生んだデジタル民主主義

中国デジタル民主主義 . . . 中国のデジタル化はデストピアとして使われている。

「幸福な監視社会」(梶谷懐、高口康太)

「1984」(ジョージ・オーウェル)(過去を支配する者は未来まで

支配する。現在を支配するものは過去まで支配する（第一部3章）

⑫台湾有事とは？

オードリー・タンさんが台湾有事を問われたときに、巧妙で的確な返答をしている。

「台湾有事とは地震と同じ。台湾は、地震多発地域に位置する。そのため、地震がいつ起きるかは予想できない。ただし、その対策、準備はできる。」（オードリー・タン）

⑬シンパシーとエンパシー

台湾問題を考えるにおいて、エンパシーが大事だと考える。

シンパシー（情緒的共感）・・・誰かを可哀そうだと思う感情や友情

エンパシー（認知的共感）・・・他者の感情や経験などを理解する能力

私たちは「他者の靴を履く」以前の問題として、「自分の靴を履けているのだろうか」と自問する必要がある。 シンパシー（感情）よりもエンパシー（理解、認知的共感）が重要

⑭その他

- ・台湾に行ったら「**国家人権博物館**」を訪問したらいい。
- ・推薦本「**人権を創造する**」（リン・ハント著）・・・三権分立は徳でもって徳を制す

⑮質問：なぜ中国は我慢できないのか？本音を出さずに100年過ごせば、香港も台湾も中国を好きになる。それがたった数十年で本性を出してしまい、周辺国から嫌われてしまう。そんなに長く我慢したら自分（中国）が台湾になってしまうと思うからか。力量がなさすぎるように思える。

⇒不安からである。恐怖が駆り出されてくるから。

質問：早稲田には中国に迎合する孔子学院は不要という意見もあるが？

⇒早稲田には2003年に設立した台湾研究所と2008年に設立した孔子学院がある。孔子学院は中国政府の出先と言う人がいるが、歴史を見ると戦前からの中国（大陸）からの早稲田への留学生は30,000人になる。一方、台湾は3,000人（戦後）。台湾研究所も孔子学院もどちらの政府からも資金提供を受けていない（=政治の影響を受けないようしている）。また台湾人の自分（江先生）が両方にタッチして公平に努めている。どちらかに偏ったら、早稲田の学の独立は保てない。

7.最近の台湾関連ニュース

■現状変更容認できず 萩生田氏 台湾で講演（12/13 産経）

自民党の萩生田政調会長は11日、台北で開かれた「持続可能な日台関係構築フォーラム」で講演し、中国が緊張感を高めている台湾海峡について「力による現状変更の試みは決して容認できない」と述べた。

■米、台湾支援に100億ドル 国家予算 下院で可決（12/11 産経）

米下院は8日、2023会計年度（22年10月～23年9月）の国防予算の大枠を定める国防権限法を賛成多数で可決した。総額は約8580億ドル（約117兆円）。中国が軍事的威圧を強める台湾に5年間で最大100億ドル（約1兆3600億円）の軍事支援を行い、対中抑止力を強化する。

■米台湾 TSMC が米で先端半導体 3ナノ工場建設へ（12/7 産経）

■陸自の沖縄部隊増強 旅団を格上げ、台湾有事備え（12/4 産経）

■元米国務長官「日本は米を補完できる」（12/2 産経）

元米国務長官のリチャード・アミテージ氏は、1日、台湾に軍事的威圧を強める中国やウクライナ侵略を続けるロシアを念頭に「日本は安全保障などの面で米を補完できる」と主張し、各分野のリーダーとして存在感を発揮するべきだと訴えた。

■中国人の半数超台湾有事「起きる」（12/1 産経）

日本の「言論NPO」と中国の中国国際出版集団は、共同アンケートを実施。数年以内(将来)台湾海峡で軍事的衝突が起きると答えた人は中国人で56.7%、日本人で44.5%だった。

■中国核弾頭 2035年「1500発」、米国務省 27年に台湾侵攻戦力（11/30 産経）

■次期総統選 水面下で動き（11/29 産経）

地方選敗退の責任を取って民進党主席を辞任した蔡総統の後任に頼清徳現副総統、国民党

は朱立倫主席、第二野党の台湾民衆党主席は柯文哲氏と予想されている。

■蒋介石ひ孫 台北市長に当選（11/27 産経）

26日に開票された台北市長選で蒋介石のひ孫の蒋万安（43歳）が当選。将来の総統候補として、中国国民党内での存在感を高めそうだ。

■台湾地方選で与党大敗 蔡総統、党主席を辞任（11/27 産経）

■中国、台湾へ「影響力工作」（11/26産経）

日本の防衛研報告書「中国安全保障レポート2023」で中国の工作が親中派当選などで成果が出ていると分析。また中国の情報戦「戦わず勝つ」サイバー攻撃と一体と懸念。

■大阪万博『台湾』名称認められず野党不満（11/23 産経）

台湾が2025年大阪・関西万博に民間枠で参加することを巡り、最大野党・中国国民党から不満が噴出している。日本が事前協議で台湾が国際博覧会条約を締結していないことなどを念頭に、国・地域枠で出展を招請しない方針を示したため、台湾が『玉山デジタルテック』を設立し、民間企業として参加することを決めた。

■米中国防相台湾ついで応酬（11/23 産経）中国「譲れぬ一線」米は自制迫る。

■台湾統一選、与党劣勢 26日投票（11/19 産経）

2024年1月の次期総統選挙の前哨戦と位置づけられる統一地方選挙が26日に投票される。台湾メディアが行った世論調査では、景気低迷や物価高騰への不満から与党・民主進歩党の候補者が各地で苦戦を強いられている。与党は「主権と安保」を強調、挽回を図っている。

■習氏、台湾問題でクギ 日中首脳 協調模索も改善遠く（11/19 産経）

両首脳は、ハイレベルの往来、対話強化▽省エネ・環境保護、医療、介護などの協力▽政府、政党、議会、地方、青少年などの往来や交流▽防衛当局間の海空連絡メカニズムに基づくホットラインの早期開通▽国際、地域に関する協調や協力ーで共通認識に達した。一方で岸田首相は東シナ海などでの中国の軍事活動に「深刻な懸念を表明した」し、習氏も「歴史、台湾などの重大な原則問題は両国の政治的基礎と基本的信義に関わる」とクギ

を刺し、本格的な雪解けが遠い実情も露呈した。

■台湾、開発中の軍用無人機をメディアに公開（11/16産経）

大型無人機「騰雲」は滞空時間が20時間で衛星や地上基地が誘導し、飛行範囲は半径約1100km。

■台湾当局の情報収集力に疑いの目（11/16産経）

台湾の情報機関が中国共産党大会の最高指導部人事を予想できなかったと批判されている。予想は半分外れたと。

8. 台湾と日本を繋ぐ五七五 千葉・東葛川柳会が創立35周年 (江畑哲男さん) (11/13産経)

さる11月13日の産経新聞の千葉版に当会会友の江畑哲男さんの記事が載っていましたので紹介いたします。以下産経新聞より引用。

千葉県の東葛川柳会（同県我孫子市）の創立35周年記念川柳大会が柏市で開かれ、約130人が出席した。来賓として台湾川柳会（台北市）の代表、杜青春（と・せいしゅん）さん（60）が来日し、川柳で日台の交流を深めた。

東葛川柳会は昭和62年10月、川柳選者で初代代表の今川乱魚さん（故人）が設立。現在は、月刊「正論」（産経新聞社発行）の「せいろん川柳」選者で、我孫子市在住の全日本川柳協会副理事長、江畑哲男さん（69）が代表を務め、「楽しく学ぶ」をモットーに月1度、柏市で句会を開いている。千葉県北西部の東葛地域をはじめ全国に約350人の会員がいるという。

江畑さんが2代目の代表に就任した後の2005（平成17）年、台北市で日台合同句会が開催された。

2014（同26）年には台湾川柳会と共編で、台湾川柳会創立20周年を記念した日台交流川柳句集「近くて近い台湾と日本」を出版した。



（江畑哲男さん（左端）と記念句会で入賞した参加者ら＝10月22日、千葉県柏市 産経より引用）

五七五の原則 17 音で人間や社会を詠む口語定型詩の川柳は、俳句と並び世界で最も短い詩形として知られる日本の文化だが、「台湾との小さな国際交流にもつながっている」と、江畑さんは話す。

杜さんは、80（昭和 55）年から日本へ約 10 年間留学するなど日本に造詣が深い。先月 22 日の創立 35 周年記念川柳大会ではユーモアを織り交ぜた祝辞を日本語で披露。「川柳を通して親世代や日本各地の人と交流でき、多くの人と友達になれた」と笑顔を見せた。

台湾川柳会の会員は現在約 50 人。「喜怒哀楽やその人の人生経験を表現できるところが川柳の魅力」と杜さん。2 年後の創立 30 周年には、東葛川柳会を台湾に招きたいという。

9. 新入会員・会友、新幹事紹介

11 月入会 西本誠さん

山田周平さん

迫田勝敏さん

富澤賢公さん（会友）

新幹事 丸山弘子さん

広谷美沙さん

西本誠さん

10. 一般社団法人日台政策研究所講演会（案内）

日台政策研究所から講演会の案内が来ました。詳細は下記の通りです。

日時 2023 年 2 月 11 日（土） 14:00～17:00

場 所 台湾文化センター

東京都港区虎ノ門 1-1-12 虎ノ門ビル 2 階

※オンラインでの配信も行います。（Zoom の予定。）

題 目 『日本と台湾のこれから』

基調講演 鈴木憲和（衆議院議員・自由民主党青年局長）

パネルディスカッション 河崎眞澄（東京国際大学教授）

石原忠浩（台湾・国立政治大学助理教授）

蔡錫勳（台湾・淡江大学日本政経研究所教授兼所長）

※台湾からの参加者はオンライン参加の予定

- 参加費 無料
- 申し込み 下記 URL にアクセスの上、必要事項をご記入ください。
<https://forms.gle/BQe5vdr2Fw25P1bP7>
- 締め切り 2023年1月31日(火)

※会場の収容人数および感染対策の関係で、対面でのご参加は30名に限定いたします。対面参加でお申し込みいただいた場合でも、オンライン（Zoom）での参加をお願いすることがあります。何とぞご了承ください。

11. 『台湾検定9級（台湾に一度行ったことのある人向け）』・・・6点以上で合格

今回は食べ物を中心です。

- ①台湾の人があまり喜ばない日本からのお土産は？（個人差はあります）
(a)東京バナナ、(b)羊かん、(c)草加せんべい
- ②台湾料理でないお店は？
(a)梅子(ウメコ/ムーチ)、(b)鼎泰豊(テンタイホン/デインタイフォン)、(c)欣葉(キンヨウ/シンエイ/キムヒョ)
- ③「毒蛇注意」の看板のある名所は？
(a)故宮博物院周辺、(b)総統府周辺、(c)蒋介石官邸周辺
- ④タクシーのことをなんと呼ぶか？
(a)計程車、(b)汽車、(c)公車
- ⑤ 駅弁のことをなんと呼ぶか？
(a)鐵路驛食、(b)鐵路快餐、(c)鐵路便當
- ⑥ 台湾のゴーヤ（苦瓜）は何色か？
(a)白、(b)黄、(c)緑
- ⑦ ベジタリアン食を台湾ではなんと呼ぶか？
(a)釈迦食、(b)素食（蔬食）、(c)不殺生食
- ⑧ パクチのことを台湾語ではなんと呼ぶか
(a)スーチートウ、(b)トウミョウ、(c)エンスイ
- ⑨ 戦争直後の食糧難時代にシンガポールより輸入し繁殖させた魚は？
(a)呉郭魚、(b)雷魚、(c)サバヒー
- ⑩ 日本にはない台湾の釣り堀は？
(a)カニ釣り、(b)エビ釣り、(c)食用ガエル釣り

解答は最終頁を参照ください。今回は8級です。

編集後記

江先生の講演と、劉記者の台湾地方選報告を聞いて感じた。日本人は無意識のうちに「台湾は本省人が多いため、反大陸的だ」という固定観念を持っていて、そのフィルターを通じて台湾の選挙を考えてしまう。しかし、台湾の人は、私=本省人と相手（私=外省人）という関係（時代）から、（本省人も外省人もない）私たちになり、選挙に向き合っている。もう過去ではなく先を見ているように感じる。中国国民党党員の8割はすでに本省人。もう国民党も外省人の党ではなくなっている。しかし、民進党はまだ自分の党は本省人の党としてとらえており、今回の地方選も反中一本やりだった。だから選挙に負けた。かといって（本省人、外省人という区別意識をしない）国民は次回の総統選で中国国民党を支援しようとも思っていない。我々選挙民はそんなに単純ではないと。国民の選択の仕方は他の先進民主主義国に近づいているように感じる。また日本のように感情論（人気取り）で動いてもいけない。私もそろそろ（江先生から学んだ）無知の知（自分があまりにも一方的な見方しかしていないということを知ること）を認識しなければと感じた。

（橋）

① .b, ②.b, ③.c, ④.a, ⑤.c, ⑥.a, ⑦.b, ⑧.c, ⑨.a, ⑩.b

- ① 日本人はお土産に羊かんを持って行くときは有名ブランド（高級品）を選ぶが、親しい台湾の人には日本の羊かんは甘すぎると言われる。逆に日本人は、台湾の人は食後のぜんざいを好きなのに何で羊かんは甘すぎるのかと疑問を持つ。不思議。
- ② 台湾発のお店だが、小籠包は上海料理
- ③ 官邸周辺の山を歩くため注意看板がある。
- ④ 最初は、チチンチューと覚えました。
- ⑤ 日本でも本当の漢字は便利の便だったが、別のことを想像するため、弁になったようである。
- ⑥ 沖縄の人が来台した時、ゴーヤが白いとビックリしていました。
- ⑦ 有精卵はダメだが、無精卵なら食べてもいいと言われる。
- ⑧ 北京語では、シャンツァイ（香菜）
- ⑨ 呉さんと郭さんが発見した（広めた）ので呉郭魚と呼ばれる。成長が高く、繁殖力も強かったため、戦後の食料難時代にはぴったりの魚だった。サバヒーは、食用だけで

なく、カツオ漁のエサとして日本にも輸出されている。

- ⑩ 手長エビが主、大きなエビもいるが釣るのは難しい。